



インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学会 2019 年度定時総会（通算第 52 回）の開催について 5 月 29 日開催	78
○2019 年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 28 日	78
○2019 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 13 日	79
○今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再） 応募締切 7 月 31 日	79
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	80
○消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について（再）	80
○PWE 誌年間購読料の値下げについて（再）	81
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について（再）	81
○「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格に関するお知らせ（再）	81
○学生会員入会時の特典について	81
○「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）	82
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	82
○2020 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	83
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について	84
○第 70 回関東支部大会の開催について（第 1 報）  11 月 8 日開催	85
○第 74 回中国四国支部講演会ならびに第 43 回地方講習会の開催について（第 1 報）  10 月 17, 18 日開催	85
農業農村工学会論文集内容紹介	87
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	89
受入れ図書	90
学会記事	90

第 87 巻第 6 号予定

展望：農業農村工学におけるレジリエンスの発展方向：宮森俊光

小特集：レジリエンス研究と農業農村工学

報文：低平地排水機場の水位・流量予測に ANN モデルを適用した事例：木村延明ほか

報文：除染廃棄物の仮置場として使用された農地の原状回復：友正達美

報文：社会体制の変化に対する大規模灌漑地区のレジリエンス：清水克之ほか

報文：豪雨時の水田地域における農業用排水路の水位変化と溢水：谷口智之ほか

技術リポート

北海道支部：軟弱地盤における橋台基礎の FEM 解析と保全対策：川岸淳司ほか

東北支部：沼田・八木地区における田んぼダムの取組み：小泉慶雄ほか

関東支部：泉ため池における耐震改修事例：高澤 翼ほか

京都支部：歴史的風土を考慮した鳥獣害防止柵の検討：外園俊夫ほか

中国四国支部：香川用水調整池の UAV 活用による管理の効率化・高度化：倉澤智樹ほか

九州沖縄支部：農地中間管理事業と連携した農地整備事業の事例紹介：山口 葵

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年8月 27日	創立90周年記念 式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月 4~6日	大会運営委員会	2019年度(第68回)農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ	東京都	86巻12号 87巻1,4号
2019年10月 17, 18日	中国四国支部	第74回講演会・第43回地方講習会	Ⓟ	山口市	87巻5号
2019年11月 8日	関東支部	第70回支部大会	Ⓟ	沼津市	87巻5号
2019年11月 14, 15日	九州沖縄支部	2019年度支部大会	Ⓟ	大分市	87巻4号
2019年11月 27, 28日	京都支部	第76回支部研究発表会	Ⓟ	和歌山市	87巻4号

農業農村工学会 2019年度定時総会（通算第52回）の開催について

公益社団法人農業農村工学会定款第18条により、2019年度定時総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第18条4項により、正会員および名誉会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

1. 日時 2019年5月29日(水) 14:00~15:00

2. 場所 農業土木会館2階A会議室

3. 議案

審議事項

1. 2018年度事業報告
2. 2018年度決算
3. 名誉会員の推挙

報告事項

1. 2019年度事業計画
2. 2019年度収支予算

2019年度「研究グループ」への助成希望者募集について（再）

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件程度です。

本年度の申請締切は、2019年6月28日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)参照)で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。

4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

(ホ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。

5. 活動報告: 助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1)研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

2019年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再）

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は**2019年9月13日（金）**です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2019年9月13日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日（水）17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けて

アップロードする。

6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円
優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。

- ② YouTube にアップロードする (9. 参考資料を参照)。
 ③ タグに3つのワード (jsidre2019, こりゃ映像, (テーマ未定)) を入れる。
 ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT (new-suido@jsidre.or.jp) 宛にメールで送る。
 入賞金をお渡しするのに必要な情報 (氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube 動画の URL)

9. 参考資料

- ・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには— Android 入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
 - ・ 【2017 年版】 Youtube (ユーチューブ) に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
 - ・ 動画作成のヒント (超かんたん動画投稿法)
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像 2018 結果 (テーマ: 私のかんがい施設遺産)
 最優秀賞: 万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水
 富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治
 高岡市土地改良区 北川 孝
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXFOo>
 優秀賞: 田の下の力持ち, 府中用水
 東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛
https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替: 00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について (再)

2019年10月1日から消費税率の引上げが予定されているため、定期刊行物の購読料および図書の定価表示を2019年4月から下記のように外税表示に変更いたしました。会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

●定期刊行物 (学会誌・論文集)

- 学会誌 1冊: 本体 1,115 円 + 税
 非会員年間購読料 16,848 円
 (1,204 円 (8%時) + 200 円 (送料) の 12 カ月分)
 論文集 1冊: 本体 7,570 円 + 税
 年間購読料
 会員 (名誉, 正, 賛助) 7,570 円 + 税
 学生会員 4,000 円 + 税

非会員年間購読料 (年 2 回冊子発行)

16,750 円 (8%時)

(1 冊の定価 (8,175 円, 8%時)

+ 200 円 (送料) の 2 冊分)

●出版物の定価表示

図書は、「本体価格 + 税」に統一する。本体価格は、現行価格 (消費税 8% 含む) を 1.08 で割り戻し、円単位で四捨五入して 10 円単位とする。

例: 設計ダム

変更前定価表示 19,543 円 (消費税 8% 含む)

変更後定価表示 本体 18,100 円 + 税

PWE 誌年間購読料の値下げについて (再)

オンラインジャーナル Paddy and Water Environment (PWE 誌) について、2018 年度の学会と発行元の Springer 社との契約変更、および今後の購読者数などの動向や会員サービスの向上などを踏まえ、2019 年 4 月から下記のとおり年間購読料を値下げいたしました。

PWE 誌年間購読料

	値下げ後	値下げ前
正会員・名誉会員	9,000 円+税 (9,720 円, 消費税 8%時)	12,343 円 (消費税 8%含む)
学生会員	4,500 円+税 (4,860 円, 消費税 8%時)	8,743 円 (消費税 8%含む)

会費等の「振込手数料」のご送金者 (会員様等) 負担について (再)

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019 年 4 月 1 日からすべての「振込手数料」をご送金者 (会員様等) の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいた

します。

【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPD 利用料

「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格に関するお知らせ (再)

2019 年 6 月に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂 5 版」の会員価格を割引して特別価格で販売中です。

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805 円	4,628 円
特別価格	一般会員 3,000 円 学生会員 2,500 円	—

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック 3 点セット (ハンドブック+用語事典+初年度会費) に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック 3 点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000 円 (15,750 円)

大学院生 19,500 円 (16,750 円)

②必携 3 点セット

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000 円 (5,750 円)

大学院生 10,000 円 (7,250 円)

③ 2 点セット

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000 円 (3,750 円)

大学院生 8,000 円 (5,250 円)

() 内の金額は、10 月 1 日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携 (第二版)

用語事典：改訂 5 版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社) 農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身が CPD 登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019年3月18日から「CPD 技術者サポート票」

(Excel ファイル)の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号から農業農村工学会誌「水との知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 5 月号掲載の問題は 6 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 88 巻（2020 年 1~12 月号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 春季 2019 年 6 月 30 日

夏季 2019 年 9 月 30 日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りま

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第88巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2020年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>

journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第87, 88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第87巻第6号	レジリエンス研究と農業農村工学（仮）	終了
7号	関東の多様な農業農村整備（大会特集号）	—
8号	農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策（仮）	終了
9号	農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか（仮）	終了
10号	世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化（仮）	5月20日
11号	学会創立90周年記念号Ⅰ（仮）	—
12号	学会創立90周年記念号Ⅱ（仮）	—
第88巻 1号	農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用（仮）	7月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第87巻第10号テーマ「世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化」（仮）

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。また、世界かんがい施設遺産は国際かんがい排水委員会による、歴史的・技術的・社会的価値のある灌漑施設を登録・表彰

するためのものです。

これらに認定・登録された施設は、新聞などのマスメディアに取り上げられることが多いため、これらの制度の存在は広く知られていると思います。一方、農林水産省のウェブサイトにも

よると、たとえば世界かんがい施設遺産では「登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています」とありますが、具体的にどのような取組みが行われているのか、これらを実現する際にどのような苦労や問題点があるのか、といったことについてはあまり認知されていないように思います。

世界農業遺産については国内で11件の登録があり、わが国は中国に次いで2番目に認定地域が多い国です。世界かんがい施設遺産に至っては全74件の登録のうち国内での登録件数は35件もあります。これは、日本が雨の多い地域で昔から水を上手に使うことで豊かな国土を維持してきた先人たちの「遺産」が豊富にあることを意味しています。これらの優れた農業

システムや灌漑施設を有効に使うことで、地域の活性化や観光などの経済的側面のほか、教育や地域住民へのアピールを通して地域の中での農業の役割や地域愛を育むなど、地域おこしに役立つはずで

そこで本小特集では、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産を活用した地域おこしの取組みやその効果の検証、実施の際の苦労などについて、現場で実際に取り組まれている実務者の方々やコーディネーターされている行政の方々、あるいはそこで研究されている方々などの幅広い方々からの報文を募集します。さらに、これらの登録・認証制度を利用した地域おこしの可能性や地域のアピールの方法など、実際の取組みだけにとどまらず、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産に関連する報文を広く募集します。

第88巻第1号テーマ「農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用」(仮)

1970年代以降、コンピュータおよび各種ソフトウェア(プログラム、アプリケーション)の利用は、課題解決のための必須な手段となっています。さらに近年では、ICTの進歩により人工知能(AI)の適用もさまざまな分野において推進・研究されています。農業農村工学においても、スマート農業の基盤を推進し各種課題を解決するためのソフトウェアの開発が行われるとともに、自作・商用・非商用を含め数多くのソフトウェアが数値シミュレーション、意思決定支援、作業・管理の自動化、データ取得・分析・管理のためのツールとして実務や研究にお

いて使用されています。

このような日々進化する各種ソフトウェアの利活用に関する情報を学会員で共有することを目的として、本小特集では、農業農村工学の各種課題を解決するためのソフトウェアの開発、その活用事例や特徴、最新技術の導入、今後の発展や利用可能性について紹介・解説する報文を、事業主体、行政部署、大学、研究機関、開発事業者およびメーカーなどさまざまなソフトウェアの開発者・利用者から広く募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター(IF)は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動物植物の生態系)

- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor(18名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Editors 14カ国から19名

- ・ Editorial Advisors 30名
- ・ Chief Managing Editor
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
- Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Kuo-Wei LIAO
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Hiroshi IKEURA
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan
- Dr. Andrew WHITAKER
Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

- 編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)
- ・ Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN
TEL : + 81-75-753-6156
FAX : + 81-75-753-6476
E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp
- 投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。
- 投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。
- 投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。
- 発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)
- 購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税
学生会員 (院生含む) 4,500円+税
- 非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
- なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。
- 申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第70回関東支部大会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時
支部大会講演会, 講習会, 情報交換会
2019年11月8日 (金) 時間未定
2. 場 所
支部大会講演会, 講習会, 情報交換会
ふじのくに千本松フォーラム プラザ ヴェルデ
〒410-0801 静岡県沼津市大手町1-1-4
TEL : 055-920-4100
3. 参加申込み
(1) 講演会, 情報交換会
参加申込締切日 : 2019年8月30日 (金)
(2) 講演申込み

申込締切日 : 2019年8月2日 (金)
原稿締切日 : 2019年8月23日 (金)

4. 問合せ先 (事務局)
静岡県経済産業部農地局農地計画課事業調整班 渡邊 おが 小粥
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
TEL : 054-221-2715 FAX : 055-221-2449
E-mail : nn-kanto@pref.shizuoka.lg.jp
5. その他
詳細は本誌6月号, 静岡県経済産業部農地局農地計画課ホームページ (<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-440/index.html>) に掲載予定です。

第74回中国四国支部講演会ならびに第43回地方講習会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会
開催日 : 2019年10月17日 (木)
会 場 : 山口県総合保健会館 (山口県健康づくりセンター)
〒753-0814 山口県山口市吉敷下東3-1-1
TEL : 083-934-2200 FAX : 083-934-2209

2. 情報交換会
開催日 : 2019年10月17日 (木)
会 場 : 未定
3. 地方講習会
開催日 : 2019年10月18日 (金)

会 場：山口県総合保健会館（山口県健康づくりセンター）

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

(1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

山口県農林水産部農村整備課 井川, 藤井, 猶

〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1

TEL : 083-933-3418 FAX : 083-933-3429

E-mail : a17500@pref.yamaguchi.lg.jp

(2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

島根大学生物資源科学部 深田耕太郎

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

TEL : 0852-32-6550

E-mail : fukada@life.shimane-u.ac.jp

5. 詳 細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌 6 月号以降に掲載予定の第 2 報でお知らせします。

会員の皆様へ

会員登録情報の更新のお願い



学会ホームページの **会員専用サイト** で会員登録情報の更新ができます。

会員専用サイトの利用にはログインが必要ですので、パスワードをお持ちでない方は、

会員専用サイトで **WEB利用登録の申込み** をして下さい。